

# 御結納のしおり



この度のご良縁、心からお慶び申し上げます。  
ご両家の末永いご多幸をお祈りいたします。

結納は、婚礼を前にふたつの家の結びつきを祝い、互いに  
婚約という人生の門出を確認し合う素晴らしい習慣です。  
これから夫婦になるふたりが互いの家族を紹介しあい、ご両  
親に感謝する気持ちを表現する大切な儀式でもあります。

ご新郎家が主導し、丹精込めてお育て頂いたお嬢様を迎え  
るにあたり、ご新婦家に対する想いを伝える形が「ご結納  
品」です。

和やかな中に厳かさのある結納式になり、ご両家にとって、  
いつまでも幸せな、楽しい思い出になりますよう心から  
お祈り申し上げます。

このしおりは、その取り交わしの手助けになれば誠に幸い  
でございます。

## 結納の地域性

結納のしきたりは、地域により違いがあります。基本的には、男性側のしきたりに沿って、準備されることをお勧めしますが、女性側の風習を慮ることが必要な場合もあります。ご両家の地域が異なる場合はお互いの地域のしきたりを確認の上、ご相談なさってください。

最近では、ご両家の希望を取り入れた様々な結納の形がございます。ご両家でご相談の上、お決めになることをお勧めいたします。このしおりでは主に関東式の結納を中心にご紹介いたします。

## ご結納品

関東では、ご両家のご結納品を取り交わします。

九品揃えが本式とされていますが、略式として、七品揃え、五品揃えの用意がございます。すべてのお品を一つの献上台に並べるのが基本です。



## 目録

目録書は、持参する結納の品目を記録した送り状です。

ご結納品のすべてのお品は、祝いの言葉として欠かせない品々であり、それら祝いの言葉をつなぎ合わせることで目録が成り立っているため、略式の場合でも、七品目（目録と長熨斗を除く）を全て書き入れ、目録書で略したお品を差し上げることを表します。

熨斗は、贈り物に添えるもののため、目録に書き入れないのが関東式結納の慣例です。目録書に書き入れる名前は、親同士、本人同士にするか、両家であらかじめ話し合いの上、取り決めます。ご両家名にする場合もあります。

### 目録

一帯 壹筋  
一末広 壹對  
一友白良賀 壹臺  
一子生婦 壹臺  
一寿留女 壹臺  
一松魚節 壹臺  
一家内喜多留 壹荷  
右之通幾久敷芽出度御受納  
くたされたく候 以上  
年 月 吉日

龜山結衣殿

高砂次郎

### 目録

一御袴 壹具  
一末広 壹對  
一友白良賀 壹臺  
一子生婦 壹臺  
一寿留女 壹臺  
一松魚節 壹臺  
一家内喜多留 壹荷  
右之通幾久敷芽出度御受納  
くたされたく候 以上  
年 月 吉日

高砂次郎殿

龜山結衣

男性から女性へ

女性から男性へ

## 結納金

元々関東では、結納金半返しの習わしがありますが、最近では、お返しの仕方にはさまざまなお考えがあります。

金額は目録には記さず、金包の中包の表に金額を書き入れます。お返しとして、品物で差し上げる場合は、その品物名を目録に書き入れてください。

男性側↓女性側 帯 壹筋、 御帯料  
女性側↓男性側 御袴 壹具、 御袴料

かつて、帯と袴は、女性・男性の道具として必ず贈られたもので、ご結納品の中心的な品物でした。現在は、「帯」「袴」と表記して、金子を贈る場合がほとんどです。

## 記念品

記念品は、身につける物を贈ることが一般的です。記念品として指輪や時計などを贈る場合は、別に白木台にのせ飾り、目録書には、優美和（ゆびわ）、登慶恵（とけい）などと書き加えます。



## 受書

受書はご結納品をいただく際にお渡しする受領書で、ご結納品ではありません。受書を用意する場合は、ご両家とも用意することをお勧めします。いただくご結納品の目録書通りに書き、片木盆にのせて渡します。

本来、受書はお仲人様や使者の方が、ご両家を往復される際に、結納の大切なお品物の取り交わしの受領を確認するために用意されました。

## 親族書（家族書）

結納を取り交わす際に親族書（家族書）を取り交わす場合があります。それぞれの家族、親族の紹介をし、これから親戚としての円滑なお付き合いができるように、ご両家が用意します。結婚式当日に親族紹介が行われますが、予め結納の際に交わしておくと便利です。

## 結納包み

ご結納品は、御風呂敷に包んで持参します。帰りはお相手が、その風呂敷に包んで、ご結納品を持ち帰ります。

# 結納当日の手順と口上

## (仲人を立てない場合の一例)

―全員着座し挨拶―

新郎父「この度は、〇様と私どもの〇に  
素晴らしいご良縁を頂戴いたしました、  
誠に有難うございます。つきましては、  
本日、お日柄もよろしいので結納の儀を  
執り行わせていただきます。」

―新郎母が新婦に結納品を運ぶ。―

新郎父「それは、□からの結納でござい  
ます。幾久しくお納めください。」

―新婦側が目録を確認する。―

新婦父「ありがとうございます。幾久し  
くお受けいたします。」

―新婦母が結納品を元の場所に運ぶ。―

―新婦母が新郎に結納品を運ぶ。―

新婦父「それは、〇からの結納でござい  
ます。幾久しくお納めください。」

―新郎側が目録を確認する。―

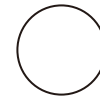
新郎父「ありがとうございます。幾久し  
くお受けいたします。」

―新郎母が結納品を元の場所に運ぶ。―

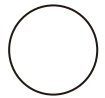
上座

新郎結納品 新婦結納品

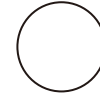
床の間



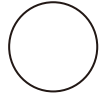
新郎



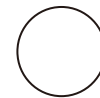
新婦



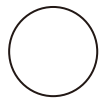
新郎父



新婦父



新郎母



新婦母

下座

口上や手順にとられることなく、両家が  
これから円滑な親戚付き合いを始め、お互  
いの理解と親睦を深めるため、心からお祝  
いすることが大切です。

―締めめの挨拶（一同起立）―

新郎父「本日は無事結納をお納めするこ  
とができました。誠にありがとうございました。  
今後とも幾久しくよろしくお願い願  
いいたします。」

新婦父「こちらこそいろいろお世話にな  
りありがとうございます。今後とも  
末永くよろしくお願いいたします。」

